



萩山小PTAだより

2013年7月5日 発行
平成25年度 第6号
萩山小学校PTA役員会

第1回 資源回収



ご協力くださり、



ありがとうございました。



収益は、32,790円 でした。

6月29日 土曜日 午前9時より、第1回 資源回収 を行いました。梅雨の時期、雨が心配でしたが、晴れ間ものぞく日で、予定どおり行えました。今回は、とてもたくさんの子どもたちがお手伝いをしてくれました。そのおかげもあり、40分ほどで全てのポイントを回り、スムーズに運び出しができました。ご協力くださったみなさま、ありがとうございました。

前日に市の回収が行われたこともあり、回収できた量が、若干少なかったのが残念ですが、回収してもらった資源の代金 27,790円に、積み込みの手伝いをするともらえる協力金5,000円を加え、32,790円の収益がありました。

学 校で常時回収することにした牛乳パックは、これまでで一番最高の90kgが集まりました。収益にすると720円ですが、こつこつと持ってきていただけたご家庭が増え、うれしかぎりです。ありがとうございました。

今年度、第1回目の回収で、厚生部の方には、地図とずれていたポイントがあったこと、看板の立て方の説明が不十分であったことで、ご迷惑をおかけしました。申し訳ありません。次の回収では、今回以上にスムーズに行えるよう、改善をしていきます。よろしくお願いします。また、ご意見やご要望をお聞かせ願えるとありがたいです。

次回の資源回収は、10月19日 土曜日 です。

子とともに「ゆうゆう」に連載されている「マナーを学ぶ」に、思わず納得してしまうことが載っていました。ご紹介します。毎日の生活の参考になればと思います。

江戸しぐさ① 江戸町衆の感性

NPO法人「江戸しぐさ」理事長 越川 禮子 より

江戸商人のトップ（町衆）の人たちの思いやりから始まったといわれている「江戸しぐさ」。それは、人の上に立つ人の当然のたしなみ（心構え）であり、人の道、ひいては商人道でありました。そのトップの考え方、生き方が具体的な目つき、表情、ものの言い方、身のこなし、つまりしぐさに表現されて、多くの人々の目に触れるようになりました。

そのしぐさは美しく、「されて」「して」「見て」気持ちがいいので、共感した江戸の人々の常識として、ついには長屋の八さん、熊さんまで、広がっていきました。

しかし今は、江戸では「体談」といわれる江戸のしぐさの、ほんの一部の目に見える、いわゆる「往来しぐさ」だけが江戸しぐさと思われています。

「往来しぐさ」は、江戸では町衆の子弟なら六歳から九歳までには身につけなければならなかった「お初しぐさ」であり、「稚児しぐさ」といわれたものでした。

本当に知ってほしいのは、「江戸しぐさ」の考え方、生き方です。「しぐさ」が、考え方、生き方にまでなかなかつながらないことを、江戸講最後の講師、故・芝三光（しばみつあきら）師は、「ハウレンソウの缶詰を売るためにポパイの映画をつくったのに、肝心の缶詰は売れないで、映画だけが売ってしまった話に似ている」

と嘆いておられました。

「江戸しぐさ」は、平和とおつき合いの仕方を教えています。

平和とは、江戸幕府を開いた徳川家康の遺言「いかなることがあっても戦いはやるな」を、武士はもちろん、町衆たちも固く守ったことです。

世界にも珍しい265年と8か月、他国を攻めず、侵略もされずという、歴史にもまれな平和な時代を実現した実績があります。

「江戸しぐさ」は、「戦いがしなくなるしぐさ」「いじめがなくなるしぐさ」なのです。

戦いやいじめをしないおつき合いの仕方というのは、今でも難しいコミュニケーションの方法であります。

その中で最も大切にされたことは、「とつくに（外国）と とつくにひと（外人）」そして「あかの他人」とのおつき合いの方法だったそうです。

遠い江戸時代に、今でいう「異文化との共生」を考えていたのです。

当時はまだ「共生」という言葉はありませんでした。しかし、江戸の「共生」とは、自立した人間が互角で向き合い、互角で言い合い、互角でつき合うことです。そして、共倒れしないように、お互いに助け合って生きることです。



往来のしぐさ

江戸町衆の心映えや考え方をしぐさで具体的に表現する第一歩は、往来でのあいさつです。

「肩引き」や「傘かしげ」など、おつき合いの仕方を率直に体で示すもので「体談」といわれました。

1 肩引き

江戸の町のせまい通りでは、肩と肩がぶつかりそうな時、ぶつかりあう肩を後ろへ引いてすれちがいました。



2 傘（かさ）かしげ

傘と傘がぶつからないよう、人のいない方へ傘をかたむけます。相手が目上の方や年上の方でも失礼にならない、すれちがいのたしなみです。

